



JICA だより



ヨルダン
(2022年から派遣)
岡崎友里さん(32)
マダバ在住
(山口市出身)

JICA青年海外協力隊員として、ヨルダンの首都アンマン近郊の街マダバの公立小学校で携わってきた教育活動も残り2カ月となった。正月明けの今回は、家族や友人との再会をテーマ

マに、イスラム教徒の多いヨルダンと日本の違いを紹介したい。

日本の正月に匹敵するイスラム教徒の重要行事に「ラマダン(断食月)」がある。ラマダンや、その約

毎週家族が集まり会食

2カ月後に開かれる「イード・アルアドハー(犠牲祭)」には家族や友人が集まり、会食をしたり、旅行

に出かけたりする。ただ、ヨルダンではこうした特別な日に限らず毎週のように家族が集まる。直



ヨルダン人の家庭で料理作りを手伝う筆者。フドウの葉でご飯やミンチ肉を巻いて炊く「ダワリー」という家庭料理

たら顔を見せなきゃ」「忙しいからね」と返すと、「日本人は常に働いている」「働き過ぎよ」とさらに反論が返ってくる。そうした家族の大切な時間

に招かれることもあった。ただ、そうは思っても日本では難しいのが現実。だからこそ、正月や盆といった限られた時間を大切にしたいと感じさせられる。

接、顔を合わせ互いの健康状態や最近の出来事を報告するのだ。なので、「日本では別々に暮らす家族や親戚が集まるのは、新年や冠婚葬祭の時ぐらだよ」と話すと驚かれる。そして決まると言われるのは「家族なんだから、近くにいたら顔を見せなきゃ」「忙しいからね」と返すと、「日本人は常に働いている」「働き過ぎよ」とさらに反論が返ってくる。そうした家族の大切な時間